

スタンフォード日本センター研究部門所長

中村 伊知哉氏



## 子どもの表現 世界をリード

は世界の表現をリードする。  
ITを使つた子どもの活動  
は、小中学校でも広がりを見せ

さきがく「京都デジタルキッズ」という協議会が発足した。美意識と先端技術が融合する京都のユニークな取り組みをもつと発展させようというアプローチで、ソフтвер双方に携わる人々の集まりとして、ひとまず子どもに関す

る取り組みから始めていく。京都が隠し持ってきたものを結合して、新しく楽しい企画を作り

出し、世界に発信する。京都府の音取りにより、NPO「CANVAS」、スタンフォード日本センター、京都西陣町家スタジオの共催で運営される。音楽ワークショップがはねてから、数名で先斗町にくりだした。自分が大学生のころ、この路は怖くて近づけなかつた。夜、淡い黒の空の下、濃い黒の東山が連なり、その下を鴨川が黒く流れる。これに沿つて黒屏の連なる静かな細い歓楽路は、一部の大人の秘められた世界だった。いつの間にか、若いアベックが気楽に練り歩くポップで明るいスポットに機変わりしていった。町家もじゅれたレストランやブティックに変身したりしている。ほかにも京都はまだ深い秘密を隠しているに違いない。

先斗町のポンとは、ボルト・ツプが開かれている。それらを支えるデジタル技術の面でも京都市は先進地だ。ゲームやケータイの分野では世界に冠たる企業が名を連ねる。トップクラスの大学もある。ITでは国際的に知られる「ATR」のような研究機関もある。

### ■今、闇から光が

ガル語の「先端」だ。この国で倣つて建設した京の都市は、ボルトカルの先進技術を取り入れた。その後も長く日本はヨーロッパに学び、近年はアメリカにあこがれている。アナログの千年、日本は世界の先端を追いかけてきた。その間、幾多の男ども女どもが、この小路を通り抜けてきた。そして今、かつての闇は、外に向かって光を放とうとしている。

アナログの千年が始まる。光が、デジタルの千年が始まる。光が、闇か。アナログ世代の人には、見通しがきかない。子どもたちに、切り拓いてもらおう。さきがけとなつて走る子どもたちに、技術と活動の場を与えて、見守り、ほめる」ことだ。

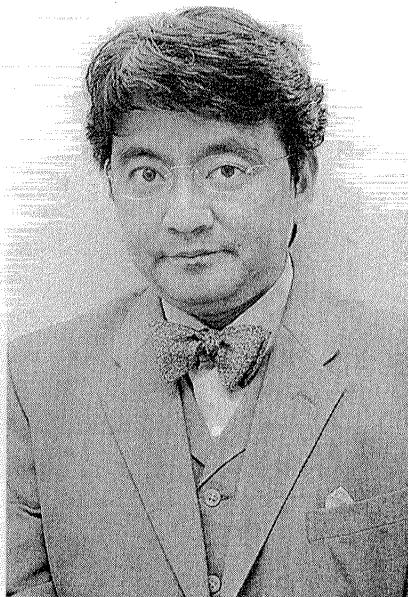
# デジタルの1000年始まる

## ■都の美の遺伝子

長い線、ぶつぶつした線。子どもたちがひくクレヨンのような線がメロディーやリズムを奏でる。うごきのよつな画面が曲になる。聴いたことない、莊重な交響曲だ。金作品をインターネットで聴くことができる。音楽の知識がなくていい。楽器が弾けなくていい。じぶんで曲を作つて、ネットで世界に発表してみよう。いっしょに曲を作つてみよう。メロディーやリズムでコミュニケーションし

みどり、あお、あか、きいろ。

パソコンの画面に曲線をひく。



なかむら・いちや 1961年生まれ、京都市出身。京都大卒。郵政省で情報通信行政を担当。98年に渡米、MIT客員教授。2002年秋から現職。子どもの創造力をはぐくむNPO「CANVAS」副理事長、国際IT財團専務理事、CSK顧問、音楽制作者連盟顧問などを兼務。

## オピニオン解説